

群 教 セ	G11 - 02
	平15.213集

将来の生き方と結びつけた 高校選択をする生徒の育成

- 「高校情報整理カード」と「夢プランカード」の活用を通して -

特別研修員 茂木 宏隆

《研究の概要》

本研究は、体験入学を中心として収集した情報を整理し、将来の希望と照らし合わせながら吟味することを通して、将来の生き方と結びつけた高校選択をする生徒の育成を目指すものである。「高校情報整理カード」を用いて情報を収集・整理し、「夢プランカード」を用いて、集めた情報と自分の将来の希望とを照らし合わせて吟味することで、将来の生き方と結びつけて高校選択ができるようになることを明らかにしようとしたものである。

【キーワード：進路指導 中学校 学級活動 自己理解 進路選択】

主題設定の理由

中学校の進路指導は、望ましい職業観と人生観の育成をめざし、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択できるようにすることが求められている。進路選択においては、生徒が自らの意志と責任において選択することが重要である。

本校3年生24名を対象として5月に行った進路に関するアンケートでは、96%の生徒が高校進学を希望していた。さらに、高校卒業後の進路については、50%は大学進学を、25%が専門学校への進学を希望しているが、高校への進学目的や理由があいまいで、将来の生き方と結びつけて進学を考えている生徒が25%と少ない。また、全体の25%の生徒が、どの高校へ進学したらよいかまだ分からないと答えていた。

本校は山間へき地にあり、高校の情報があまり身近にはない。そのため、高校案内のパンフレットやWebページ、一部の卒業生の話などからの情報に頼るところが大きく、限られた情報から自分の都合のよいようにとらえて誤った判断をする危険性がある。また、高校の体験入学への参加も、例年あまり積極的とはいえない状況にある。

将来の生き方を考えて高校選択ができていないことの原因としては、情報が身近でなく高校をあまり知らないことや、偏った情報から偏った高校の見方をしていること、高校選択の基準があいまいで自分に都合のよいように解釈をしがちであること、高校で具体的な取組へのイメージがわからないこと、自己理解が不十分で自分の長所やどんな職業に向いているのかがはっきり分からないこと、将来への夢や展望が明確ではないことなどが考えられる。

そこで、観点を明らかにし、評価項目を設定して高校の体験入学に臨めば、より客観的に高校を評価でき高校選択の際に重要な判断材料にすることができるであろう。また、友達との意見交換を通して自分のよさや適性について考えることで、自分の将来の生き方を見つめ直し、高校で伸ばしたい力が明確になると考える。さらに、集めた高校の情報を整理し、自分の将来の生き方との関連を考えながら吟味することで、高校選択の際に自信を持って選ぶことができるであろう。これらの活動を通して、将来の生き方と結びつけて高校選択をすることができるようになってほしいと考え本主題を設定した。

研究のねらい

「高校情報整理カード」を用いて体験入学の際に必要な情報を偏りなく収集・整理し、集めた情報を「夢プランカード」を使ってまとめ、将来の希望する進路と照らし合わせて吟味することを通して、高校での目的が明確になり、将来の生き方と結びつけて高校選択ができるようになることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 高校の体験入学において、「高校情報整理カード」を用い、高校の特色についての情報を幅広く収集し、さらに重視したい項目に視点を当てて情報収集を行うことで、目指す高校についての理解が深まるであろう。
- 2 学級活動 において、自分の適性や、「友達の長所と向いている職業探し」の活動で書いてもらったメモのまとめなどをもとに、自分の将来の生き方を考えることで、その実現のために今後伸ばしていきたい力を考えることができるであろう。
- 3 クラス全員の「生き方」の一覧を読み、友達がどのような生き方をしようとしているかを知り、学級活動 において、グループで割り当てられた友達の進路プランに対するアドバイスを考え意見交換することで、多面的な見方や考え方に触れ、夢に向かう様々な進み方に気付くであろう。
- 4 今までに集めた高校の情報を「夢プランカード」にまとめ、自分の希望する将来像との関連を考え吟味することで、将来の生き方と結びつけた高校選択ができるようになるであろう。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 将来の生き方と結びつけた高校選択

高校選択する際に、「雰囲気」「親の考え」「進学率」「合格可能性」「部活動」他、多くの観点が考えられる。これらの観点は個人個人で重視する度合いがもちろん違うが、将来の自分の生き方と結びついたものでなければならない。自分が現在の親の年代になったとき（30年後）に、どんな生活をしていきたいのかを考えることを通して将来を見つめ、高校で学ぶ意義を考え、目的を明確にして進学できるようにしたい。イメージや合格可能性で安易に選択をするのではなく、将来の生き方と結びつけて、「将来、 で の職業について、 のような暮らしをするために、 などの力を付けたいので、 高校へ進学し、 をがんばりたい。」というような高校の選択理由と高校生活での目標が書けるようにしたい。

(2) 「高校情報整理カード」

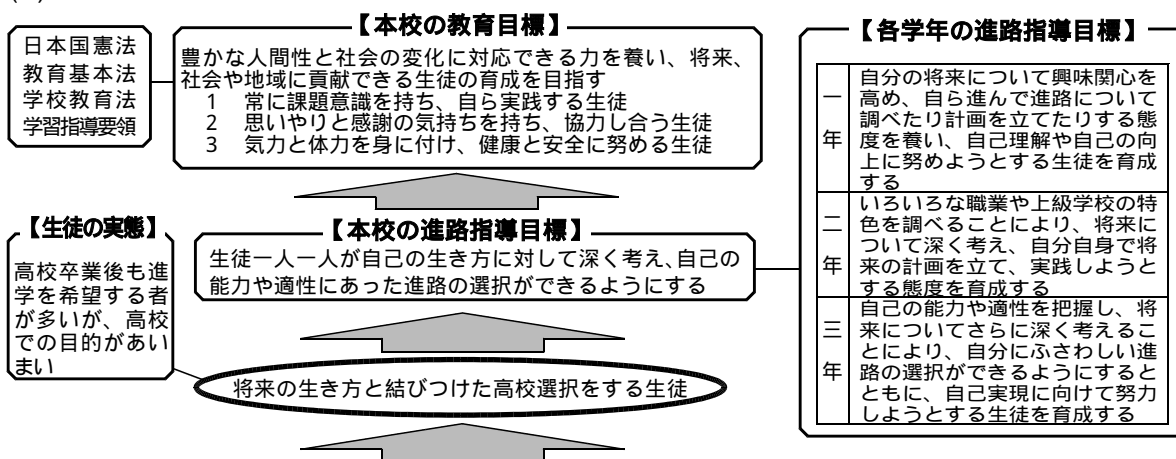
このカードは、高校体験入学における観点をはっきりさせ、より主体的な情報収集を行い、集めた情報を整理しておくためのものである。進路選択の際に客観的に判断する材料となるように、高校のよい面、悪い面どちらかに偏ることなく、記入するようにさせたい。評価項目は基本項目として「将来の希望」「経済性」「学力」「保護者の考え」の4項目を入れておき、その他にこだわりたい項目を各自で追加する。また、各評価項目に体験入学前の予想を入れ、今までの情報と自分で見て聞いて感じた情報との違いにも着目させたい。（資料1）

考えられる職業」をもとに30年後の生き方(どんな所で、どんな職業について、どんな家族と、どんな生活をしているかなど)を考え、次に30年後の生き方を実現するために必要な資格や技能を身に付けていくためにどのような進路を選択していけばよいかを考え、それに結びつけて具体的に高校を吟味して選択するような流れで構成してある。

学級活動の「友達の長所と向いている職業探し」では、事前にクラス25名全員のの名前を書いたメモ用紙を持たせ全員の長所と向いている職業を考えて記入するようにさせておく。そして、友達に書いてもらったメモを「自分の興味・関心」と「就職の実現性」の2観点の関連で吟味し、「実現できそうだけれどやりたくない」「やりたいけれど実現できそうにない」「やりたいし実現できそう」「やりたくないし実現できそうにもない」というように分類・整理していく。他者から見た自分の姿を参考に自己理解を深め、30年後の自分の生き方を考える。

進路希望は今後も変化していくこともあるであろうし、ここで将来を決定するものではないので、30年後の生活を1つに限定することはせず、柔軟に扱っていきたい。具体的に高校を吟味する際には、友達からのアドバイスも参考にしながら検討していく。さらに、「高校情報整理カード」での各高校の評価を一覧表にまとめ、それぞれの高校を比較検討し、自分の考えを整理していく。「倍率」の欄には1～5倍の倍率を設定して高校の総合評価を行う。ここで重視したい「将来の希望」の項目は、あらかじめ倍率を「5」に設定しておき、他の項目は「将来の希望」の欄と相対的に考えて、各自のこだわりに応じて重み付けの設定をする。自分で他の項目に重み付けをして評価をすることで、高校選択する上で、何に価値をおくのか自分で確認できるようになると考える。(資料2)

(4) 全体構想図



	目指す生徒	生徒の活動
4	将来の生き方と結びつけた高校選択ができる。	今まで集めた高校の情報を「夢プランカード」に記入し、自分の将来の生き方との関連を考えて吟味し、どんな面で力を伸ばしていきたいか、どの高校に進むかを考える。
3	自分の夢に向かう様々な進み方に気付く。	進路に対する考えについて、互いにアドバイスを考え、意見交換をして、改めて自分の進路プランを見直す。
2	自分の将来の生き方を見つめて、今後伸ばしていきたい力が分かる。	自分や友達の長所や向いている職業を考えて意見交換をし、「夢プランカード」に自分の理想とする将来の生活を考え、それを実現するために必要なことを考える。
1	主体的に情報を収集し、自分の目指す高校についての理解が深まる。	高校選択する際の重視項目を入れた「高校情報整理カード」を作り、それを用いて高校見学を中心に情報収集をする。

2 実践の概要及び結果と考察

考察にあたっては、「高校情報整理カード」及び「夢プランカード」の記述内容と活動後の生徒の感想の分析を通して行い、抽出生徒及びクラス全体の変容をとらえていく。

抽出生徒A子は、5月実施の進路希望調査で、志望校としてX高校を挙げていたが、その理由は「学校の設備がよさそうなので」というものであった。この時点で挙げた高校選択の際に

重視する項目は「学力レベル（進学率など）」「親の考え」「合格可能性」であった。高校卒業後の進路は「何となく考えている」と答え、「英語を勉強したい」と考えていた。

(1) 目指す高校についての理解を深めることができたか。(見通し1)

ア 実践の概要

高校の体験入学において、「高校情報整理カード」を用い、高校の特色についての情報を幅広く収集し、さらに重視したい項目に視点を当てて情報収集を行い、分かったことや感想、その高校でどんな力が伸ばせそうかなどをまとめた。

イ 結果と考察

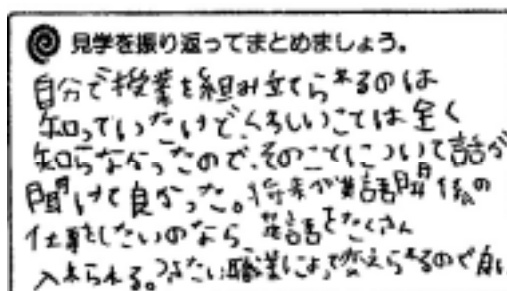
「高校情報整理カード」を活用したことの感想は「めあてを持って効率よく見学することができた」「注意して見たり聞いたりする部分があったので高校のよさを深く知ることができた」などがあった。見学後の感想には「コース選択によっては介護福祉士2級の資格が取れる」「授業の組み方を見て自分の就きたい職業に向けて勉強が進められることが分かった」など、学校の雰囲気だけでなく、施設・環境・教育課程・部活動・進路・行事等、幅広く情報を収集した。その中で、83%の生徒が、重視したい観点に沿って自分の視点でまとめていた。教育課程の特徴について63%、学習の様子や学校の取組について42%、進学率や取得可能資格について29%の生徒が記述していた。

A子はあらかじめ基本項目として設定された4観点（「将来の希望」「経済性」「学力」「保護者の考え」）の他に「興味・関心」「環境・設備」の観点を追加して高校の体験入学に臨んだ。特に興味・関心の高い英語の学習に視点を当てて見学した。見学で新たに分かったこととして「授業の組み立てが分かった」「それぞれのコースの内容がよく分かった」「設備がよく整っていることが分かった」などを書いていた。

見学を振り返っての感想(資料3)を見ると、「英語をたくさん入れられる」「つきたい職業によって変えられる」と書かれており、教育課程の特徴についての理解が深まったことが分かる。

これらのことから、「高校情報整理カード」を用いて高校の体験入学に参加したことで、幅広い情報収集と、めあてを持った主体的な情報収集でき、その高校への理解が深まったと考える。

資料3 A子の体験入学後の感想



(2) 将来の生き方を見つめ、今後伸ばしていきたい力を考えることができたか。(見通し2)

ア 実践の概要

帰りの会で「友達の長所と向いている職業探し」の活動について説明を聞き、約1週間かけてクラス全員の長所と向いている職業について考え、メモに記入した。学級活動では、友達に書いてもらったメモを「自分の興味・関心」と「実現性」の2観点の軸で整理し、自分の適性も踏まえて30年後の理想とする生活プランと、今後具体的に伸ばしていきたい力は何かを考え、「夢プランカード」にまとめた。

イ 結果と考察

「友達の長所と向いている職業探し」の活動をして、「自分では気付かなかった長所や考えていなかった職業が発見できた」「自分の考えているものと近いのが多くて少し自信が持てた」「職業に対して視野が広がった」など友達のアドバイスが参考になったという感想の生徒が75%以上いた。また、友達のことを考えつつ自分の進路に目を向けて「自分の将来のこともよく考えることができた」という生徒もいた。30年後のプランは、自分の興味関心や適性、友達のアドバイスを踏まえて100%の生徒が書いていた(資料4)。この中で75%の生徒が友達の意見を参考にしながらプランを立てていた。理想の生活プランと伸ばしていきたい力についても、

全員が書き、特に88%の生徒が、伸ばしていきたい力について「数学の力」「工業系の会社で生かせる作業ができる技術」「パソコンを自在に操る力」など、具体的な言葉を入れて書いていた。

A子は、友達から「優しい」「英語が得意」「しっかりしている」などの長所を認めら

れ、向いている職業として「通訳」「保育士」「記者」などの意見が寄せられた。ここまでA子は自分の得意教科である英語を生かして、英語を使う仕事に就きたいと漠然と考えていた。夏休みに参加した海外研修旅行の際に知った「グランドホステス」という職業を、向いている職業探しの中で詳しく調べ、具体的に「英語を生かせる」「人の役に立つ」「国内で仕事ができる」「身長などの身体的規制がない」点などを考慮して、新たになりたいと考えるようになった。興味のある英語を生かした職業で、将来の希望と興味・関心が一致したことになる。そして、プランAに「グランドホステスになって結婚して都会に住み、2人の男の子と夫と生活する」と書いた。授業後の感想で「みんなから見た自分を知ることができてためになった。向いている職業が分かった」と書いている。友達が見た自分の長所を知ること、この職業に向いていると自信を持つことができたと考える。また、向いている職業で「保育士」という意見も多く、「保育士なんて考えていなかったけど、自分に合っているのかなって思った」と感想を持ち、第2候補のプランBに「保育士になり、早めに結婚をして2人の子供たちと田舎で暮らしたい」と書いた。高校で具体的に伸ばしたい力については資料5のとおり、「英語力」「基礎学力」と具体的に書いていた。

「30年後の将来」は、自分が現在の親の年齢に近くなったときということイメージしやすく、先のことに興味を持ち考えさせるには適当であったと考える。また、他者の意見を踏まえて自己理解を深め、自分の適性や、友達からの意見をもとに自分の将来の生き方を見つめることが動機付けとなり、その実現に近づくために今後伸ばしていきたい力を具体的に考えることができるようになったと考える。

(3) 夢に向かう様々な進み方に気付くことができたか。(見通し3)

ア 実践の概要

教師がまとめた、クラス全員の「夢プランカード」の記述一覧(「30年後のプラン」「将来を考えて伸ばしていきたい力」)を読み、友達がどのような生き方をしようと考えているのかを知った。そして、それぞれ分担された4人へ職業実現に向けてのアドバイスを1週間かけて考えた。学級活動において、各自で考えたアドバイスを持ち寄り、割り当てられた共通の4人のよりよい進路プランを班で話し合い、アドバイスをまとめた。友達からのアドバイスを読み、自分の進路プランを見直した。

イ 結果と考察

お互いにアドバイスを考えて意見交換することを通して「友達から客観的な意見や別の視点からの意見を聞くことができて参考になった」「自分で考えていたのとは違う進み方もあることが分かった」「自分になりたい職業についての進み方が前より分かった」など、全員の生徒が、友達の意見が参考になったと答えている。さらに、少数だが「自分と似た考えの人でも違う進路を希望していて、そういうのもいいかなと思った」「考えていた高校以外にもその進路に向いている高校があることが分かった」という感想もあり、自分の進路に対して客観的に見

資料4 30年後のプラン

- ・埼玉県に住んで保育士をしている。結婚をして子供は2人で、毎日充実している。
- ・理数系の教師になる。夫と19歳と高校生の子供が2人いて、仕事と家庭を両立させている。
- ・子供が2人いて、都会で工業系の会社に勤め、いろいろな物を作る仕事をしている。

資料5 A子の伸ばしたい力

30年後の将来を考えて具体的に伸ばしていきたい力
英語力、基礎学力、数学の力、大学へ行くための
必要
(自分で将来の理想は、仕事したいけれど
英語力に必要に思っています)

ている生徒もいた。そして、見学に行かなかった高校の教育課程を調べたり、教師や友達に情報提供を求めたり、より自分にあった進み方を探そうと進路関係の本を読む生徒が出てきた。

A子は友達から「英語の能力を伸ばすのなら大学以外にも外国語専門学校で学ぶのはどうか」「英語を使って私立の保育園で英語を教える保育士もいいのでは」というアドバイスを受け、参考になったことを資料6のとおり書いている。また、友達へのアドバイスを考えることを通して「いろんな進路があったのでこういう道もあるんだと思った」と、知らなかった進路を知り視野が広がったことが分かる。そして、その後に行われた高校の説明会において、留学のシステムや教育課程についてさらに詳しく質問をしてきた。

資料6 A子の参考になったこと

意見交換をして参考になったこと
1つの職業だけでなく、多くの進路があることがわかった

友達へのアドバイスを考えることを通して自分の進路プランを振り返り、新たな方向性に気付くことと、友達からアドバイスをもらい客観的にとらえ視野を広げることをねらいとして行ったが、生徒はどちらかというアドバイスをもらい視野を広げる方に意識が向き、友達へのアドバイスを自分に当てはめて振り返るまではいかなかった。しかし、多面的な見方や考えに触れ、夢に向かって様々な進み方があることに気付くことができるようになったと考えられる。

(4) 将来の生き方に結びつけた高校選択ができるようになったか。(見通し4)

ア 実践の概要

学級活動 の最後に、「高校情報収集カード」の評価を「夢プランカード」に記入して整理するやり方の説明を聞き、家に持ち帰って表に記入をした。自分の理想とする将来の生き方を念頭において、最終的に受検先を決める際の決め手を考え、志願先と志願理由を「夢プランカード」にまとめた。

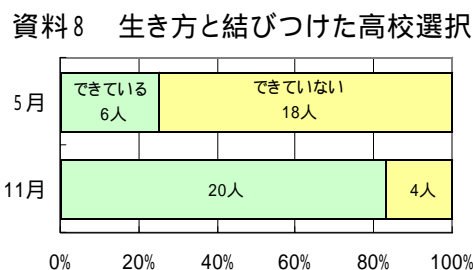
イ 結果と考察

夢プランカードを用いて各観点に倍率を設定して計算した結果、75%の生徒が総合得点の最も高かった高校を選び、他21%の生徒が次の高校を選んだ。評価表の数値化したものがすべてではないが、倍率設定をし、価値観を明確にして数値化することで、生徒は納得して高校選択をしたといえる。これにより、96%の生徒が具体的な進学希望先を絞り込むことができた。このカードを活用しての感想は、資料7のように「進路について分かりやすく考えられた」というように、筋道を立てて考える手助けとなったというものが多かった。進路を考える上で大切なことについて「将来を考えて高校を決める」「なりたい職業を考えておく」「夢をもつ」というように「将来の生き方」を考えることが大切だと答える生徒が多く、実際に生き方と結びつけて高校選択ができた生徒が83%と増加し、5月の調査時と比べて3倍強になった(資料8)。

資料7 「夢プランカード」を活用して

他の人の意見もとり入れて進路を考えることができた
将来にどうするかをじっくり考えることができた
夢にどうしたら近づけるかが分かってきた
自分の本当に行きたい高校が決まった

資料8 生き方と結びつけた高校選択



資料9はA子の評価表である。5月には選択基準として「学力レベル(進学率など)」「親の考え」「合格可能性」の順で挙げていたが、11月には重視項目を、自分の将来の

資料9 A子の評価表

項目	倍率	将来の希望	経済性	学力	保護者の考え	夢・志望	親の考え	合格可能性	総合得点
		X	X	X	X	X	X	X	
X 高校	25	12	20	10	25	20			112
Y 高校	20	9	16	4	25	16			90
Z 高校	15	12	20	8	12	8			75

希望とも一致し、自分ががんばりたいことである「興味・関心」を挙げた。理由は「夢をもって興味があればやる気が出てがんばれるので」としている。X高校、Y高校ともに英語を学ぶ点で「将来の希望」「興味・関心」

資料10 A子の高校選択の決め手

何を決め手として最終的に受検する高校を決めるのか、自分の考えを詳しく書きました。
この将来、職業はグランドホステスで、幸せに暮らしたいために英語や英語力などでめざすので、
X高校へ進学して、英語をがんばりたい

の項目は高い評価をしている（表の囲み線）。「自分にあったコース選択ができる」「留学のシステムがある」「希望で7時間授業が受けられる」「設備が充実している」などを決め手として、X高校を選択した。そして、グランドホステスになることを将来の夢として「英語力をさらに伸ばすためにX高校へ進学して英語をがんばる」と具体的に将来の生き方と結びつけて高校選択をすることができた（資料10）。結果としては、5月時点での進路希望と同じX高校を第一希望とした。希望先は変わらなかったが、将来の生き方を念頭において吟味したことで、A子の中で「よさそうな高校」から「夢を実現するための高校」へと意識が変わったといえる。

これらのことから、生徒は「夢プランカード」を活用して自分の希望する将来との関連を考え吟味することで、将来の生き方に結びついた高校選択ができるようになったと考える。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

「高校情報整理カード」に重視する観点を設定して体験入学に参加したことで、めあてを持って主体的に情報収集でき、注意深く見学をしてその高校への理解が深まった。

自分の適性や友達の意見をもとに自分の将来の生き方を見つめることで、その実現に近づくために高校進学のもつことができるようになった。

互いの進路プランに対して話し合いをすることで、多面的な見方や考え方に触れ、夢に向かう様々な進み方に気付くことができた。

「夢プランカード」を活用して自分の希望する将来との関連を考え吟味することで、将来の生き方に結びついた具体的な高校選択ができるようになった。

2 今後の課題

将来の夢として職業を考えるには、多くの職業を知らなければならない。第1学年、第2学年での進路学習を充実させ、より多くの職業を知る活動をする必要があると考える。また、友達の進路プランを見て共通する部分や新たな発見ができるような活動を取り入れることや、卒業生や両親、祖父母、地域の人など、友達以外の外部の人からの意見や体験談を参考に考える活動を取り入れることで、より客観的に自分の進路を見つめ、考える手助けになるのではないかと考える。

< 参考文献 >

- ・『生徒の希望を育む進路指導』 群馬県教育委員会（1993）
- ・『個性を生かす進路指導を目指して 第1・第2・第3分冊』 文部省（1993）
- ・『改訂新版 実践的研究のすすめ方』 群馬県教育研究所連盟（2001）
- ・『進路指導 第76巻 第10号』 財団法人日本進路指導協会（2002）
- ・『特別研修員研究報告書 第206集【学校経営課】』 群馬県総合教育センター（2003）